

看護福祉学部

学校推薦型選抜(一般) 小論文

問題 次の文章は朝日新聞（2021年8月19日朝刊）に掲載されたインタビュー記事「耕論 運動部とジェンダー」から抜粋・改変したものです。この文章を読み以下の問いに答えなさい。

スポーツにおける多様な性を問いかけた東京五輪。子どもたちが日々打ちこむ学校の部活動でも、変化の波は起きています。誰もが望むようにスポーツをできる日は近いのでしょうか。

■女子選手、「普通」になる日 詠里さん（漫画家）

男子にまざり、野球に打ち込む女子選手の姿を描いた漫画「フジマルッ！」を連載しました。主人公・藤丸あさひは小学3年から野球を始め、高校では硬式野球部に入ります。本人は「女子だから」という意識は持っていません。

ですが、周りは色々と言います。野球を始めた頃はチームメイトから「女だから手加減してやった」、高校でも同級生女子が「女の子一人だと男子が気を使ってくれる」。作品には、実際に男子チームで活動する女子選手から話を聞き、現実にある視点を入れようと考えました。誰もが女子とプレーすることを受け入れる世界ではないのです。

私が漫画家になろうと思ったきっかけは、高校野球でした。実家は阪神甲子園球場の近くで、高校2年のときに高校野球を見に行き、かっこよさに感動した。本格的に絵の勉強をはじめ、高校野球についても調べました。そこで男子が活動する硬式野球部に、数は少ないけれど女子部員もいることを知りました。

ある新聞記事に、女子部員の「普通になりたい」という言葉が載っていました。褒められたいとかではなく、周りがしていることを自分も普通にできるようになりたい。びびるとききました。「これを描きたい」と。

私はピアノもやっているのですが、ピアノを弾いても「男だからいい」とか「女だからだめ」なんて言わないですよね。出した音だけを評価してもらえる。それが野球などになると、男女という視点になってしまいます。

体力や筋肉量など身体能力の差はあっても、性別ではなく「そういう選手」が入ってきたと思って接すればいいと思います。選手としての権利がほしい。プレーを見てもらいたい。より高いレベルで練習したい。そう思って入部してきているのですから、必要以上に優しくする必要だってないんです。それが「普通になる」ということではないのでしょうか。

男子の高校野球では、女子は公式戦に出られません。いまは女子野球がある、という声もあるでしょう。でも男子と一緒にチームで指導を受けてきて、それが合う選手もいる。門戸は閉ざさないでほしいと感じます。

漫画の世界では近年、「男子の競技」と見られてきたスポーツをする女子を描く作品が増えていきます。その状況を経験した人が増え、SNSなどを通じて認知されてきたからで

はないでしょうか。

でもいまはまだ、読まれる理由に「女子がやるなんてユニーク」という観点がある。出版界が商業作品として成立すると気づいた段階です。「普通じゃないから」という観点で取り上げられなくなったとき、社会全体が変わったと言えるのかもしれませんが。(聞き手・富田光平)

■新体操、男子ならではの美 山田小太郎さん(国士舘大学男子新体操部監督)

新体操といえば女子のイメージが強いでしょう。東京五輪でも華麗な演技や人気アニメキャラの衣装で注目されました。ただ男子の新体操も最近はメディアで取り上げられる機会が増え、だんだん知られるようになってきたと感じています。

男子の新体操は日本発祥とされています。戦後、集団で演技する「団体徒手体操」として生まれ、日本独自のスポーツとして発展しました。欧州で生まれた女子新体操とはルールやルールの一部が異なります。それでも、演技の難しさや完成度、美しさなどを競う点においては同じ芸術スポーツです。

実は男子新体操はここ10年、「美しさ」を求める観点で著しく変化しています。衣装はきらびやかになり、リングなどの手具(しゅぐ)も華やかに装飾されたものになった。最も進化したのは柔軟性でしょうか。かつては胸を床につけるのに苦勞する選手が多かったですが、今は強豪校の選手でなくてもできます。女子の専売特許かと思われていた腰の柔軟性を見せる演技を得意とする選手も出てきました。

女子で禁止されているタンブリング(バク転や宙返り)でいえば、新体操のバク転は、体操競技よりも体を反り気味にするため見栄えがいいんです。新体操経験者のバク転は美しさが違うと評されます。男子新体操ならではの魅力がファンの心をつかみ、知名度アップにつながってきたと実感しています。

私は高校から新体操部に入りました。アイドルグループ「光GENJI」に影響を受け、バク転や宙返りに憧れました。でも周囲からは、「男子なのに新体操なんてやるの?」「リボンを回すの?」などと言われ、自分が新体操をやっていると言いつらかった思い出があります。

だからまずは競技を知ってほしいと現役時代はテレビ番組で演技をしたり、2010年のドラマ「タンブリング」で実技指導に携わったりしてきました。誤解が解けて男子新体操のかっこよさを分かってもらえるとうれしかった。日本体操協会では改革の一環として衣装のルールに手を加えました。昔は地味なびちびちのランニングシャツと長パンで恥ずかしかったんです。

現在の課題は、国内の競技人口が推定2千人とまだまだ少ないことです。今年の春には、宮城県の高校の男子新体操部を描いたアニメ「バクテン!!」が放送され、映画化も発表されました。これを追い風にしたいです。

男子新体操は海外ではまだまだあまり普及しておらず、五輪でも行われていません。新体操が今のまま女子のみの種目だとジェンダー平等の観点から望ましいことではない。男子新体操がいつか五輪種目になることが私の目標です。(聞き手・笠井正基)

(後略)

問1 詠里さんと山田小太郎さん、双方の主張の共通点は何でしょうか。50字以内で述べなさい。

問2 詠里さんがいう「女子選手が『普通』になる日」がやって来るためには、人々の意識や社会にどのような変化が求められるのでしょうか。あなた自身の考えを500字以内で述べなさい。